

構成資産を知る(その三)相川金銀山③

今回は「近代遺跡」について紹介
します。

江戸時代、幕府の財政を支えた相川金銀山は、明治2年に官営「佐渡鉱山」となると、政府は外国人技術者を招いて、西洋技術の積極的な導入を図りました。

イギリス人技師、ジェームス・スコットは、西洋の機械類を設置してその運転を指導しました。また、同じくドイツ人技師のアドルフ・レーは、明治10年に貴金属鉱山では日本最初となる西洋式の垂直坑道(大立坑)をはじめ、近代的な施設整備に尽力しました。

明治18年、鉱業の第一人者であった大島高任が鉱山局事務局長として赴任すると、さらなる近代化と拡張が進められ、高任坑の開削、選鉱場の新設、大間港の整備等が進められました。

明治22年、鉱山が皇室財産として御料局の所管となると、佐渡支庁長となった渡辺渡によって鉱山学校が開校され、技術者の育成が図られました。

明治29年、鉱山が三菱合資会社へ

払い下げられると、施設の拡張などが図られ、県内初となる鉱山施設への電力を供給する発電所が建設されました。

昭和時代に入ると、国策による金の増産が始まり、北沢地区に東洋一と言われる月間5万トンの鉱石を処理する浮遊選鉱場が建設されました。

昭和28年、鉱山の大縮小が行われ、主要な施設の多くが廃止されたものの、平成元年に操業を中止し休山となるまで採掘が続けられました。



北沢浮遊選鉱場(昭和期)

産業観光部世界遺産推進課

☎ 63-51336

佐渡ファン増加!

仲間を集めて

若者地域活性化

イベント開催

～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

赤泊地区担当 渋谷 春菜

赤泊地区を中心とした20～30代の若者がイベントを自主企画・運営し、自転車・釣り・コスプレ撮影の3つのイベントで、赤泊地区に人と活気を呼び込みました。

中でもコスプレイベント「SADOCOS」は25人が集まり、9割が島外からの参加でした。参加者は由緒あるお寺の東光寺や赤泊の町並、港周辺でアニメやゲームなどのキャラクターに扮した格好で写真を撮って楽しみました。

参加者からは「趣のある良い景観ばかりだった」「また佐渡にきたい」との感想が聞かれ、地域の若者たちで島外からも人を呼び込み、佐渡ファンを作ることができました。

この企画を進めるにあたって活発に活動する島内の若者コミュニティができ、また新しい企画を自分たちで作る経験をしたことで、一人一人の地域づくりへの前向きな意識の変化もありました。楽しさと住みよい地域を自分たちで作る仲間がこれからもっと増えていくといいなと思います。おもしろいアイデアがある方はぜひお声かけください!

お問い合わせ 産業観光部地域振興課 地域振興係 ☎ 63-4152

